

令和8年4月1日

## 国際学部国際学科 アセスメントプラン

### アセスメントの方針

建学の精神並びに教育の目的に沿った教育活動を実施できているかを確認し、教育活動の成果と課題の発見に資することを目的として、学修成果のアセスメントを行う。学修成果に加えて、その過程となる学修意欲や学修行動もアセスメントに含む。これらのアセスメントにより、3つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）の到達状況を把握する。ディプロマ・ポリシーの到達状況は卒業時の学修成果や卒業後の自己並びに社会的評価、カリキュラム・ポリシーの到達状況はカリキュラムの実施状況及び各授業科目における学生の学修成果等をもとにディプロマ・ポリシー到達に向けた進捗、アドミッション・ポリシーの到達状況は入学者の資質・能力を確認する。

アセスメントは、学生の成果物等に基づき「何ができるか（アウトカム）」を評価する直接評価と、学生の自己評価に基づき「何ができると思っているか（アウトカム）」、「どのように学修しているか（アウトプット）」を評価する間接評価に基づき行う。学生全体だけでなく個々の学生の状況についても、経年的かつ多面的に把握する。

### アセスメントの方法

No.	名称	対象	時期・頻度	学年	主な質問項目、内容等	実施責任部署	結果の活用方法
1	卒業論文のルーブリック	DP2	毎年度末	卒業学年	卒業論文をルーブリックにて評価する。	教学支援委員会	授業方法やカリキュラム改善、自己点検・評価に活用する。
2	卒業アンケート（全国学生調査の最終年次）	DP1～5 CP	毎年3月	卒業学年	学習経験、学習行動、習得した能力、学生の満足度	学部運営委員会	IR・教育支援センターからの報告を受け、学部運営委員会で分析し、カリキュラム改善、学修支援や学修環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用する。

3	卒業生の進路状況	DP1~5	毎年	卒業学年	卒業生の進路（就職率、有力企業就職率、大学院進学率）	進路支援委員会	キャリアセンターより報告を受け、就職支援の充実、自己点検・評価、情報公開に活用、入学者募集資料に活用する。
4	卒業生調査	DP1~5	5年に1回	卒業生	同窓会総会等でDPを反映させたアンケートを実施。	学部同窓会	アンケート結果を学部構成員で共有するとともに、自己点検・評価に活用する。
5	就職先アンケート	DP1~5	毎年1回	卒業生就職先	在籍する卒業生の活躍から、国際学部のDP達成度や強み・弱みなどをアンケート聴取	進路支援委員会	IR・教育支援センターより報告を受け、カリキュラム改善、学修支援や学修環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
6	学部長会談	CP, DP1~2	毎年度3月頃、及び必要に応じて実施	学生代表者（国際学部自治会）	学修行動、授業満足度、留学プログラム	学部運営委員会	会談実施後に議事録・報告書を作成し、寄せられた意見を学部運営の改善及び自己点検・評価に活用する。
7	学修振り返りアンケート	CP	毎学期1回	全学年（留学中の学生を除く）	学習行動、授業の理解度、満足度	教学支援委員会	結果にもとづき授業担当者が教授法、授業内容、難易度、評価方法などの改善につなげる。当該学期の授業運営を振り返り、リフレクションペーパーに記載して学部へ提出し、学生の供覧に付す。
8	成績不振学生、休退学の調査	CP	毎学期1回（成績不振） 随時	全学年	学業不振の状況（GPA、修得単位数、留年者数）、休学者数、退学者数	学生委員会	修学及び学修支援、カリキュラムの改善、自己点検・評価に活用する。また、留年及び休退学の理由を分析し、学修環境や留学制度の改善につなげる。

			(休退学)				
9	全国学生調査 (2年次)	CP	毎年度 1回	2年生	学修経験、学修行動、 習得した能力、大学の 印象	国際学部	IR・教育支援センターより報告を受け、授業方法やカリキュラム改善、学修支援や学修環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
10	GPS-Academic (1年次)	CP	毎年度 1回	1年生	入学時の本学への満足 度、入学前学習状況、 卒業後の進路ビジョン	国際学部	IR・教育支援センターより報告を受け、入学時の学修モチベーションや留学に向けてのモチベーションの度合い、リテラシー／コンピテンシーの特徴、卒業後の進路ビジョンの傾向などを測る。また、これらの項目を入試区分別に分析し、入試選抜や入学前学修を含むカリキュラム改善につなげる。
11	GPS-Academic (3年次を基本)	CP	毎年度 1回	3年生	学修行動、授業・カリ キュラム満足度	国際学部	IR・教育支援センターより報告を受け、入学時の学修モチベーションや留学に向けてのモチベーションの度合い、リテラシー／コンピテンシーの特徴、卒業後の進路ビジョンの傾向などを測る。また、これらの項目を入試区分別に分析し、入試選抜や入学前学修を含むカリキュラム改善につなげる。
12	学生生活実態 調査	CP	隔年9～ 10月頃	全学年	学生生活、課外活動の 経験、学修行動、大学 に対する評価	国際学部	学生部より報告を受け、カリキュラム改善や学習支援の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
13	入学試験（公 募推薦・共通 テスト・一般 入試）	AP	毎年	入学志願者	本学部での学修に必要な 基礎学力	入試委員会	入学センターより報告を受け、入学試験の改善、入学者の現状把握に活用する。
14	英語プレイス メントテスト	AP	毎年	1年生	ELS プレイスメントテ スト（グローバル専 攻）、及び教務委員会 作成のプレイスメント （東アジア専攻）	連携委員会	入学時点の英語習熟度を確認し、習熟度別語学教育のクラス分けに活用、入試制度の改善に活用

15	総合型選抜入学試験	AP	毎年	入学志願者	筆記試験で判定しにくい本学部に適合する資質・能力	入試委員会	入学後の成績や各種活動の状況を把握し、よりよい選抜手段への改善に活用する。
16	留学レポート	DP1～DP5	毎年	1年次後期・2年次前期の留学制度参加中の学生	留学中の活動、体験、感想、振り返り	留学委員会	DP達成にさらに資するよう留学制度を改善し、個々の学生の留学中の状況を把握して問題があれば解決するためのデータとして活用する。
17	1年次 TOEIC テスト	DP3 CP	毎年	1年生	1年前期時点の英語力	教務委員会	1年次前期の言語科目の成果を確認し、よりよい指導のために活用する。
18	2年次 TOEIC テスト	DP3 CP	毎年	2年生	2年前期時点の英語力	教務委員会	1年前期の TOEIC スコアと対照することで、留学による英語力の伸長を把握し、帰国後のよりよい指導のために活用する。
19	留学終了時の ELS/ILSC レベル	DP3 CP	毎年	2年生	留学終了時に、どの ELS・ILSC レベルであったか	連携委員会	入学時のプレイスメントテスト以降一貫して ELS・ILSC で学修した成果を把握し、今後の留学制度改善に活用する。
20	3年次 TOEIC テスト	DP3 CP	毎年	3年生	3年前期時点の英語力	連携委員会	2年前期の TOEIC スコアと対照することで、帰国後の英語力の伸長を把握し、2年次後期及び3年次前期の言語科目の運用改善に活用する。
21	中国語・韓国語の語学検定試験	DP3 CP	毎年	東アジア専攻2年生	留学終了時点の専修言語の運用力	国際学部	東アジア専攻の1年間の留学の成果を把握し、以後の授業におけるよりよい指導に活用する。

以上

令和8年4月1日

## 国際学部国際学科グローバル専攻 アセスメントプラン

### アセスメントの方針

建学の精神並びに教育の目的に沿った教育活動を実施できているかを確認し、教育活動の成果と課題の発見に資することを目的として、学修成果のアセスメントを行う。学修成果に加えて、その過程となる学修意欲や学修行動もアセスメントに含む。これらのアセスメントにより、3つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）の到達状況を把握する。ディプロマ・ポリシーの到達状況は卒業時の学修成果や卒業後の自己並びに社会的評価、カリキュラム・ポリシーの到達状況はカリキュラムの実施状況及び各授業科目における学生の学修成果等をもとにディプロマ・ポリシー到達に向けた進捗、アドミッション・ポリシーの到達状況は入学者の資質・能力を確認する。

アセスメントは、学生の成果物等に基づき「何ができるか（アウトカム）」を評価する直接評価と、学生の自己評価に基づき「何ができると思っているか（アウトカム）」、「どのように学修しているか（アウトプット）」を評価する間接評価に基づき行う。学生全体だけでなく個々の学生の状況についても、経年的かつ多面的に把握する。

### アセスメントの方法

No.	名称	対象	時期・頻度	学年	主な質問項目、内容等	実施責任部署	結果の活用方法
1	卒業論文のルーブリック	DP2	毎年度末	卒業学年	卒業論文をルーブリックにて評価する。	教学支援委員会	授業方法やカリキュラム改善、自己点検・評価に活用する。
2	卒業アンケート（全国学生調査の最終年次）	DP1～5 CP	毎年3月	卒業学年	学習経験、学習行動、習得した能力、学生の満足度	学部運営委員会	IR・教育支援センターからの報告を受け、学部運営委員会で分析し、グローバル専攻のカリキュラム改善、学修支援や学修環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用する。

3	卒業生の進路状況	DP1～5	毎年	卒業学年	卒業生の進路（就職率、有力企業就職率、大学院進学率）	進路支援委員会	キャリアセンターより報告を受け、就職支援の充実、自己点検・評価、情報公開に活用、入学者募集資料に活用する。
4	卒業生調査	DP1～5	5年に1回	卒業生	同窓会総会等でDPを反映させたアンケートを実施。	学部同窓会	アンケート結果をグローバル専攻構成員で共有するとともに、自己点検・評価に活用する。
5	就職先アンケート	DP1～5	毎年1回	卒業生就職先	在籍する卒業生の活躍から、グローバル専攻のDP達成度や強み・弱みなどをアンケート聴取	進路支援委員会	IR・教育支援センターより報告を受け、カリキュラム改善、学修支援や学修環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
6	学部長会談	CP, DP1～2	毎年度3月頃、及び必要に応じて実施	学生代表者（国際学部自治会）	学修行動、授業満足度、留学プログラム	学部運営委員会	会談実施後に議事録・報告書を作成し、寄せられた意見を学部運営の改善及び自己点検・評価に活用する。
7	学修振り返りアンケート	CP	毎学期1回	全学年（留学中の学生を除く）	学習行動、授業の理解度、満足度	教学支援委員会	結果にもとづき授業担当者が教授法、授業内容、難易度、評価方法などの改善につなげる。当該学期の授業運営を振り返り、リフレクションペーパーに記載して学部へ提出し、学生の供覧に付す。
8	成績不振学生、休退学の調査	CP	毎学期1回（成績不振） 随時（休退学）	全学年	学業不振の状況（GPA、修得単位数、留年者数）、休学者数、退学者数	学生委員会	修学および学修支援、カリキュラムの改善、自己点検・評価に活用する。また、留年及び休退学の理由を分析し、学修環境や留学制度の改善につなげる。
9	全国学生調査（2年次）	CP	毎年度1回	2年生	学業不振の状況（GPA、修得単位数、留年者数）、休学者数、退学者数	国際学部	IR・教育支援センターより報告を受け、授業方法やカリキュラム改善、学修支援や学修環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用

10	GPS-Academic (1年次)	CP	毎年度1回	1年生	入学時の本学への満足度, 入学前学習状況, 卒業後の進路ビジョン	国際学部	IR・教育支援センターより報告を受け、入学時の学修モチベーションや留学に向けてのモチベーションの度合い、リテラシー／コンピテンシーの特徴、卒業後の進路ビジョンの傾向などを測る。また、これらの項目を入試区分別に分析し、入試選抜や入学前学修を含むカリキュラム改善につなげる。
11	GPS-Academic (3年次を基本)	CP	毎年度1回	3年生	学修行動, 授業・カリキュラム満足度	国際学部	IR・教育支援センターより報告を受け、入学時の学修モチベーションや留学に向けてのモチベーションの度合い、リテラシー／コンピテンシーの特徴、卒業後の進路ビジョンの傾向などを測る。また、これらの項目を入試区分別に分析し、入試選抜や入学前学修を含むカリキュラム改善につなげる。
12	学生生活実態調査	CP	隔年9～10月頃	全学年	学生生活、課外活動の経験、学修行動、大学に対する評価	国際学部	学生部より報告を受け、カリキュラム改善や学習支援の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
13	入学試験（公募推薦・共通テスト・一般入試）	AP	毎年	入学志願者	本学部での学修に必要な基礎学力	入試委員会	入学センターより報告を受け、入学試験の改善、入学者の現状把握に活用する。
14	英語プレイスメントテスト	AP	毎年	1年生	ELS プレイスメントテスト	連携委員会	入学時点の英語習熟度を確認し、習熟度別語学教育のクラス分けに活用、入試制度の改善に活用
15	総合型選抜入学試験	AP	毎年	入学志願者	筆記試験で判定しにくい本学部に適合する資質・能力	入試委員会	入学後の成績や各種活動の状況を把握し、よりよい選抜手段への改善に活用する。

16	留学レポート	DP1～ DP5	毎年	1年次後期・2年次前期の留学制度参加中の学生	留学中の活動、体験、感想、振り返り	留学委員会	DP達成にさらに資するよう留学制度を改善し、個々の学生の留学中の状況を把握して問題があれば解決するためのデータとして活用する。
17	1年次 TOEIC テスト	DP3 CP	毎年	1年生	1年前期時点の英語力	教務委員会	1年次前期の言語科目の成果を確認し、よりよい指導のために活用する。
18	2年次 TOEIC テスト	DP3 CP	毎年	2年生	2年前期時点の英語力	教務委員会	1年前期の TOEIC スコアと対照することで、留学による英語力の伸長を把握し、帰国後のよりよい指導のために活用する。
19	留学終了時の ELS/ILSC レベル	DP3 CP	毎年	2年生	留学終了時に、どの ELS・ILSC レベルであったか	連携委員会	入学時のプレイスメントテスト以降一貫して ELS・ILSC で学修した成果を把握し、今後の留学制度改善に活用する。
20	3年次 TOEIC テスト	DP3 CP	毎年	3年生	3年前期時点の英語力	連携委員会	2年前期の TOEIC スコアと対照することで、帰国後の英語力の伸長を把握し、2年次後期及び3年次前期の言語科目の運用改善に活用する。

以上

令和8年4月1日

## 国際学部国際学科東アジア専攻 アセスメントプラン

### アセスメントの方針

建学の精神並びに教育の目的に沿った教育活動を実施できているかを確認し、教育活動の成果と課題の発見に資することを目的として、学修成果のアセスメントを行う。学修成果に加えて、その過程となる学修意欲や学修行動もアセスメントに含む。これらのアセスメントにより、3つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）の到達状況を把握する。ディプロマ・ポリシーの到達状況は卒業時の学修成果や卒業後の自己並びに社会的評価、カリキュラム・ポリシーの到達状況はカリキュラムの実施状況及び各授業科目における学生の学修成果等をもとにディプロマ・ポリシー到達に向けた進捗、アドミッション・ポリシーの到達状況は入学者の資質・能力を確認する。

アセスメントは、学生の成果物等に基づき「何ができるか（アウトカム）」を評価する直接評価と、学生の自己評価に基づき「何ができると思っているか（アウトカム）」、「どのように学修しているか（アウトプット）」を評価する間接評価に基づき行う。学生全体だけでなく個々の学生の状況についても、経年的かつ多面的に把握する。

### アセスメントの方法

No.	名称	対象	時期・頻度	学年	主な質問項目、内容等	実施責任 部署	結果の活用方法
1	卒業アンケート (全国学生調査の 最終年次)	DP1～5 CP	毎年3月	卒業学年	学習経験、学習行動、習得した能力、学生の満足度	学部運営 委員会	IR・教育支援センターからの報告を受け、学部運営委員会で分析し、東アジア専攻のカリキュラム改善、学修支援や学修環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用する。
2	卒業生の進路状況	DP1～5	毎年	卒業学年	卒業生の進路（就職率、有力企業就職率、大学院進学率）	進路支援 委員会	キャリアセンターより報告を受け、就職支援の充実、自己点検・評価、情報公開に活用、入学者募集資料に活用する。

3	卒業生調査	DP1~5	5年に1回	卒業生	同窓会総会等でDPを反映させたアンケートを実施。	学部同窓会	アンケート結果を東アジア専攻構成員で共有するとともに、自己点検・評価に活用する。
4	就職先アンケート	DP1~5	毎年1回	卒業生就職先	在籍する卒業生の活躍から、東アジア専攻のDP達成度や強み・弱みなどをアンケート聴取	進路支援委員会	IR・教育支援センターより報告を受け、カリキュラム改善、学修支援や学修環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
5	学部長会談	CP, DP1~2	毎年度3月頃、及び必要に応じて実施	学生代表者（国際学部自治会）	学修行動、授業満足度、留学プログラム	学部運営委員会	会談実施後に議事録・報告書を作成し、寄せられた意見を学部運営の改善及び自己点検・評価に活用する。
6	学修振り返りアンケート	CP	毎学期1回	全学年（留学中の学生を除く）	学習行動、授業の理解度、満足度	教学支援委員会	結果にもとづき授業担当者が教授法、授業内容、難易度、評価方法などの改善につなげる。当該学期の授業運営を振り返り、リフレクションペーパーに記載して学部に提出し、学生の供覧に付す。
7	成績不振学生、休退学の調査	CP	毎学期1回（成績不振） 随時（休退学）	全学年	学業不振の状況（GPA、修得単位数、留年者数）、休学者数、退学者数	学生委員会	修学及び学修支援、カリキュラムの改善、自己点検・評価に活用する。また、留年及び休退学の理由を分析し、学修環境や留学制度の改善につなげる。
8	全国学生調査（2年次）	CP	毎年度1回	2年生	学修経験、学修行動、習得した能力、大学の印象	国際学部	IR・教育支援センターより報告を受け、授業方法やカリキュラム改善、学修支援や学修環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
9	GPS-Academic（1年次）	CP	毎年度1回	1年生	入学時の本学への満足度、入学前学習状況、卒業後の進路ビジョン	国際学部	IR・教育支援センターより報告を受け、入学時の学修モチベーションや留学に向けてのモチベーションの度合い、リテラシー／コンピテンシーの特徴、卒業後の進路ビジョンの傾向などを測る。ま

							た、これらの項目を入試区分別に分析し、入試選抜や入学前学修を含むカリキュラム改善につなげる。
10	GPS-Academic (3年次を基本)	CP	毎年度1回	3年生	学修行動、授業・カリキュラム満足度	国際学部	IR・教育支援センターより報告を受け、入学時の学修モチベーションや留学に向けてのモチベーションの度合い、リテラシー／コンピテンシーの特徴、卒業後の進路ビジョンの傾向などを測る。また、これらの項目を入試区分別に分析し、入試選抜や入学前学修を含むカリキュラム改善につなげる。
11	学生生活実態調査	CP	隔年9～10月頃	全学年	学生生活、課外活動の経験、学修行動、大学に対する評価	国際学部	学生部より報告を受け、カリキュラム改善や学習支援の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
12	入学試験（公募推薦・共通テスト・一般入試）	AP	毎年	入学志願者	本学部での学修に必要な基礎学力	入試委員会	入学センターより報告を受け、入学試験の改善、入学者の現状把握に活用する。
13	英語プレイスメントテスト	AP	毎年	1年生	クラス分けのための英語のテスト	教務委員会	入学時点の英語習熟度を確認し、習熟度別語学教育のクラス分けに活用、入試制度の改善に活用
14	総合型選抜入学試験	AP	毎年	入学志願者	筆記試験で判定しにくい本学部に適合する資質・能力を測定	入試委員会	入学後の成績や各種活動の状況を把握し、よりよい選抜手段への改善に活用する。
15	留学レポート	DP1～DP5	毎年	1年次後期・2年次前期の留学制度	留学中の活動、体験、感想、振り返り	留学委員会	DP達成にさらに資するよう留学制度を改善し、個々の学生の留学中の状況を把握し、問題があれば解決するためのデータとして活用する。

				参加中の 学生			
16	1年次 TOEIC テスト	DP3 CP	毎年	1年生	1年前期時点の英語力	教務委員 会	1年次前期の言語科目の成果を確認し、よりよい指導のために活用する。
17	2年次 TOEIC テスト	DP3 CP	毎年	2年生	2年前期時点の英語力	教務委員 会	1年前期の TOEIC スコアと対照することで、留学による英語力の伸長を把握し、帰国後のよりよい指導のために活用する。
18	3年次 TOEIC テスト	DP3 CP	毎年	3年生	3年前期時点の英語力	連携委員 会	2年前期の TOEIC スコアと対照することで、帰国後の英語力の伸長を把握し、2年次後期及び3年次前期の言語科目の運用改善に活用する。
19	中国語・韓国語の 語学検定試験	DP3 CP	毎年	東アジア 専攻2年 生	留学終了時点の専修言語の運 用力	国際学部	東アジア専攻の1年間の留学の成果を把握し、以後の授業におけるよりよい指導に活用する。

以 上